

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：地域振興対策費

**事業名 清流の国ぎふ大学生等奨学金管理システム
運用事業費**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域振興課 地域プロモーション係

電話番号：058-272-1111(内 2099)

E-mail：c11143@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 165 千円 (前年度予算額：165 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	165	0	0	0	0	0	0	0	165
要求額	165	0	0	0	0	0	0	0	165
決定額	165	0	0	0	0	0	0	0	165

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成28年度に貸与を開始した「清流の国ぎふ大学生等奨学金」を貸付中の奨学生は毎年100人程度増加している。また、大学等を卒業した後は、5年間一定の条件を満たした場合は貸付が免除、もしくは卒業後最長19年以内に全額返還など、奨学生一人一人の事情に応じ、長期間にわたり債権を管理する必要が生じている。

令和元年度に「清流の国ぎふ大学生等奨学金」の奨学生の個人情報、貸与、返還等を管理するため、教育財務課及び私学振興・青少年課が導入、運用している「奨学金管理システム」を改修し、本奨学金の管理機能を追加し、運用している。

(2) 事業内容

「清流の国ぎふ大学生等奨学金」の奨学生の個人情報、貸与、返還等を管理するため、「奨学金管理システム」の運用保守を行う。

イ 契約期間

令和元年度 導入

令和元年度～令和5年度 保守・運用

※奨学金管理システムの契約期間が令和6年3月末までであるため、
同月までの運用保守契約とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託費	165	奨学金管理システムの保守・運用（12か月）
合計	165	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

既存の奨学金管理システムを改修し、「清流の国ぎふ大学生等奨学金」の奨学生の情報と貸与、返還等の情報を管理する機能を追加する。追加後は適切に運用・保守を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

貸与情報を適切に管理するためのものであり、直接移住定住施策の実績に結びつくものではないため。

（前年度の取組）

既存の奨学金管理システムを改修し、「清流の国ぎふ大学生等奨学金」の奨学生の情報と貸与、返還等の情報を管理する機能を追加。
運用保守契約を締結し運用開始（令和2年1月より）。

（前年度の成果）

システム導入により、効率的に奨学生の情報を管理することが可能となり、貸与に係る支出についても総合財務会計システムと連携し一元管理できるようになった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	貸与情報の適切な管理のため、必要性は非常に高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) —	
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	システム化することで膨大な貸与情報の管理の効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 総合財務会計システムと適切な連携を図り、運用していく。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き運用、保守を行っていく。
--